

10月に入り寒さの到来が早い欧州では新型コロナウイルス感染の第2波が拡大している。ジョンズ・ホプキンズ大(米国)の集計によると、感染者の合計が22日時点で560万人を超えて、米国とインドに次ぐ規模で、世界で3番目に多いブラジルを上回る深刻さだそうだ。スペインとフランスでは同日までに感染者数が100万人を超えて、英國やイタリアでも1日当たりの新規感染者が過去最多を記録し、各国政府は拡大を防ぐため、夜間の営業時間の制限や外出の禁止など再規制の動きを強めている。

その一方で我が国では、「GOTOトラベル」の対象に東京発着の旅行も加わり、



観光地や繁華街に人がもどりつつあり、イベントなどの人数制限の緩和も徐々に進み、諸活動も再開に向けて動き出した。

そうした中で、銀座三越での京橋築地小学校児童による収穫体験が開催できことはうれしい限りだ。銀座

三越では2010年のリニューアルに伴い地域貢献の一環で屋上にファームを開設し、地元の京橋築地小学校児童の農業体験の場とした。毎年4年生が5月に落花生の種を蒔き、さつま芋の苗を植えて10月に収穫する。その間、参加した児童は「テラスファーム会員証」をつけて、週末に保護者と一緒にファームを訪れ、落花生やさつま芋の生育を觀察しハーブ類を収穫することが出来る。近くのビルに巣箱のある銀座のミツバチ達もハーブの花に集まるので、ミツバチが蜜を集め様子も観察できる。都会の中で農業やミツバチを通して自然に触れあう貴重な体験も「今年は開催できるのか」1か月前まで決まらなかつた。

いつもの年なら種蒔きや苗植え体験に来る5月は感染防止のため休校中であつた。「秋には感染拡大が収束し、収穫体験だけでも」という願いをこめて落花生の種を蒔き、さつま芋の苗を植えた。6月に学校は再開したが、農園体験の打ち合わせができる状態ではなかつた。調整が始まったのは9月に入つてからだ。三越総務の担当者と学校を訪問し、校長先

生、4年生担任の先生と協議した。中央区教育委員会から各学校に「10月から感染防止に配慮して郊外活動再開許可」の通知もあり、「収穫体験は良い経験だから」と校長先生にも賛同いただき、10月7日の開催が決まった。

当日は天候にも恵まれ、体育着姿の元気な子供たちが9階テラスに集合した。

4年生は22人と21人の2クラス。収穫体験とミツバチ学習会とを前後に分かれてクラスごとに実施する。さらに収穫体験では落花生グループとさつま芋グループに別れた。さつま芋収穫はシャベルで掘つて芋を探すのだが、芋が付いていないツルもあり苦戦している子もいる。それ

に比べて落花生は、株を抜くと必ず実がついて来る。「落花生はいいな！すぐ収穫できて」と言う子を励ましながら、一緒にさつま芋を探す。穴を掘るのにも慣れてくると、大きな芋を掘り当て自慢する子や3個、4個と掘り当てる子もいて大いに盛り上がる。「種まきや苗植えも出来たら良かったかな！」と言う声が聞こえてくる。多くの学校行事が中止となつたことだ。

事業紹介

NPO法人銀座ミツバチ
プロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。
平成22年6月環境大臣表彰。
平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり選定を受ける。